

スクエアダンス

ドイツ友好の旅

5～6年程前にドイツからウォルター君という若者がが北海道に来ていたのは、記憶にある方達も多いと思います。いつかドイツに遊びに行くと約束していたらしく、2年位前からドイツに観光旅行に行きスクエアダンスを踊ろうという話が持ち上がり、昨年11月に旅行に出かける事となった。日程調整やウォルター君との連絡はフィジカルの金子さんが英文でのやり取りを行って準備を進めていただいた。参加者は16名と添乗員の計17名で平成9年11月21日～30日の旅でした。

千歳空港8時05分発、関西空港12時50分発のJALで、一路ドイツのフランクフルトに向けて飛び立った。搭乗時間は約13時間で飲物・昼食・ビデオ・本・居眠り・機外

の景色を見たり
で結構時間をつぶ



す事が出来た。ドイツとの時差は8時間で時計を現地時間のAM4:50に合わせて馴らす様にした。機内のテレビで航路と今どこを飛行中なのかを知らせており、新潟から日本海を横切り旧ロシア上空・北海を通りフランクフルトに現地時間で16:40分に着陸した。現地はも

う既に真っ暗。ミュンヘンへの乗り継ぎまでの間、円をマルクに両替し空港内のビアスタンドで早速乾杯。40分位でミュンヘン空港に着き、21:00頃ホテルに到着し、ビールで乾杯。ここで初めてヴァイツェンビール(ヴァイス)を飲み、美味しくてファンになりドイツにいる間中ずっと飲んでいた。

翌朝9時からミュンヘン市内観光に出かけた。ガイドは和歌山県出身で30年在独の日本人女性。市内の建物は商店街もアパートも全て同じ高さで5～6階に統一され、且つ隣の建物との隙間がなく、道路から次の道路までの一画が繋がっていた。法律での規制との事であるが、壁の色の異なる建物が整然と建ち並ぶ街並みは非常に美しく感じた。教会や郊外の建物は別だったが、又、信号機の高さはバスの運転手の目の高さであり、乗用車でも日本の様に見上げなくても良い為、歩行者への注意がおろそかにならず交通事故にも国として取組んでいる様子が窺がえた。初めての昼食は鳥が一羽そのまま出てきて皆びっくり。ほとんどの人が半分以上残っていた。さすがに体格の違い・食生活の違いを感じた。午後からは市民の台所を満たすという青空市場に行った。何と「柿」は「KAKI」と表示されていて変に感心してしまった。果物等を調達してきてホテルで少し休憩。

夕方からスクエアダンスの例会に参加

する為バスで会場に行く。レベルはプラス。何とプロのコーラーがいた。プラスの卒業記念パーティとの事で我々が訪問して6セットで躍らせてもらった。会場は市内のFD・SDの5つのクラブが共同で管理し使用しているとの事で、各クラブの旗などで飾ってあった。

レベル的には日本のような難しい動作はなく(卒業パーティの所為かもしれないが)標準的なコールであった。又、ハツ井さんもコールをさせて貰い、最初はドイツのダンサーも途惑っていたが前述のプロコーラーがダンサーに「コールを良く聞きなさい」と指示したらしく普通に踊れるようになった。アンコールも戴き大好評であった。夕食は会員の手作りでステーキからデザートケーキもあり、片言の英語で話しをしながら22時迄楽しく踊らせてもらった。まいったのは、ゲームダンスと思うがドイツ語で動作をコールするチップがあり、ダンサーが英語で言ってくれたが咄嗟にはなかなか動けないものである。フランクフルトから車で4時間もかけて、ウォルター君も駆けつけてくれた。我々がドイツに来た経緯を皆に話していた(勿論ドイツ語で)が、後から聞くと「約束はしていたが本当に来るとは思っていなかった」とか何とか話していたらしい(金子さん訳)。日本から来た記念として、クラブのバッジを頂いたり、夕食をご馳走してもらったり、楽しいひとときであった。ドイツ

でもタバコを吸う人は廊下に集まり、「どこから?何故?いつまで?」とか英語でいろいろ質問されたが何とか通じた様になる。

前述のプロコーラーが「日本に呼んで欲しい。ギャラは2000DM+交通費と宿泊費」と盛んに売り込んできていた。ホテルに帰り、ウォルター君を囲みまたまたビールでプロスト(乾杯)!!

翌日もバスで夕方まで観光し、レストランで夕食を楽しんでいると、突然前述のプロコーラーが現れて皆と一緒にビールを傾け、再度「日本に呼んで欲しい」と売り込んでいた。ドイツもスクエアダンスは盛んで、クラブ数は500位?、ダンス人口は約7~8000人位との事、2年後位に欧州全体(?)のコンベンションも予定していると聞きました。

先日トウインクルの藤田氏から、「ドイツに行った時の旅行記があると聞いたけど、支部ニュースに載せたいから原稿をもらえませんか」と話しがあり、「個人的なものだし、旅行記だし、スクエアダンスの事はあまり書いてないし」と断ったのですが、再度要請がありましたので縮小版で書き直しました。が、もう一度ダンスをした事と、私が感じた日本とドイツの違いをお話ししたいので、あと一回だけ書かせて下さい。

スィンガーズH 中村 賢三記

スクエアダンス

ドイツ友好の旅②

昨年10月の支部ニュースに、H9年11月にドイツに行き、スクエアダンスを踊ってきた事を投稿させていただきました。その時つい、「ダンスを踊った事や私が感じた日本とドイツの違いをお話したいのもう一度書かせてください」と言った事を覚えていた方がいて、原稿依頼がありました。シマッタと思いましたが重い腰(筆)をあげて書いています。

前回は3日分の内容でした。4日目の24日からはガイドさんも旭川出身で21年在独の方に変わり、ミュンヘンを離れロマンチック街道を南下。珍しく晴れていてアルプスの山々が遠くに見えた。有名なノイシュバンシュタイン城(ドイツニーランドのシンデレラ城のモデルで有名)は天気も良く、絵葉書そのままに緑の中に真っ白にそびえており綺麗でした。感心したのは、築城時から全館がお湯による集中暖房がなされていたことです。昼食をとったフッセンの郊外レストランは、経営者が大の日本びいきで日本から観光客が来るとカレーライス・生タマゴ・漬け物・ふりかけ等を振舞ってくれ、思いがけず米のご飯を食べることができた。その日泊ったフッセンのペンシ

ヨンの近くにスーパーマーケットがあると聞き6人で歩き始めたが見当をつけて行った所はレストランで、周りは暗く明かりがついているのは文房具店だけ。せっかくだからと買ってきた紙ナプキンは何と「MAID IN JAPAN」であった。日本製品はドイツの田舎町にもあるようで…。

5日目の25日のアウグスブルグ(2000年の歴史の街)はヨーロッパでも5本の指に入る大富豪の住居や、フッゲライという世界で初めての社会福祉住宅(家賃は今でも月1.75DM(130円)で現在も350人が居住)等を見学。ディスケンズピュールではカラフルな木組みで作られたドイチェスハウスの美しい街並み。バス遅刻騒ぎ後、夕方城壁に囲まれた中世の街、ローテンブルグに到着。夕食後、教会前の広場で21時に仕掛け時計の人形がでてくるのを待つ間、15分位、アカベラ(マイク・スピーカー・音楽なし)で2回目のSDを踊りました。

6日目の26日は古城街道のニュールンブルグへ。500年前に世界最古の地球儀が作られた町として有名。11世紀に岩山に建てられた城は、深さ50mもある井戸や、見ている人の方向に足先が動いて見えるトリック肖像画等が有名。

ドイツの路面電車は、どの町でも2両編成で色も明るくカラフルで、宣伝を大きく入れていたのが印象的。又、アウトバーン(ドイツを縦横に結ぶ高速道路で

無料)ではトラックは80km・バスは100km・乗用車は無制限で200km位で走っていた。夕食はハイデルベルグの中華で満足。ホテルでは非常ベル騒ぎもあった。

7日目の27日の朝は自宅に国際電話を掛けてみた。ホテルの部屋からは勿論、公衆電話でもVISA等のクレジットカードを使って簡単に掛けられ、しかも電話の声が近いのに驚きます。ハイデルベルグ城の地下には22万リットルも入る世界最大のワインの大樽がありビックリした。昼食はフランクフルトの日本料理の店「ひげ松」。久しぶりの日本食の刺身・きんぴら・うな重・茶碗蒸と熱いお茶に皆満足していた。

8日目の28日は夕方の5時半迄自由時間ということで、何人かづつに分かれて市内地図を持って観光に出かけた。ドイツはどこの町でも11月の中旬位からクリスマスを祝う為に、町中の広場は食べ物・家庭雑貨・衣料品・ゲーム等の市(屋台)が立ち並び賑わっていた。大きなデパートや商店街でもセールをやっていた。又、有料トイレも多く必ず誰かが入口で見ており、少しお金が貯まるとポケットにしまい込むところを見たが、そのトイレが自分の領域で、掃除して収入にしているんだという事が解った。皆それぞれ観光とショッピングを満喫したとの事で、元気に事故もなく無事ホテルに帰って来ていた。

夕食を早めにとり、郊外にある「ウォ

ルター君の所属しているスクエアダンスクラブ」を訪問した。レベルはMSでしたが、コーラーが2人いてちょっとひねった面白い組立てのコールが楽しかった。日本からわざわざSDの為に来たという事で大歓迎してくれた。スチューデントタイム(日本のビギナータイム)があり、子供から老人迄が受講していて、勿論英語で説明(英語もドイツ語も私には解らないが、ドイツ人はほとんどの人が英語を話せるので皆さんは心配ありません)していた。ここでもハツ井さんがコールを掛け、ミュンヘン以上に皆踊っていて、アンコールもあり大好評でした。金子さんの英語でのお礼のスピーチ(これも何を話したのか私には不明)も堂々としていて大きな拍手をいただいた。記念に飛行機の形をしたバッジを貰い22時にSD会場を後にした。

9日目の29日はドイツにサヨナラをする日で、ライン川観光出発。途中の田舎町のリュースハイムの土産物店にも日本人女性が務めていた。レストランではキルトを履いた男性がいた。お客の夫婦と片言で話したり写真を撮ったり皆積極的に楽しんでた。空港にはウォルター君も見送りに来てくれ、再開を約束して最後のプロスト!! 21時発は日本の30日朝5時で、11時間かかって成田には16時着。10日間の旅行も事故もなく21時に無事帰道。ページもなくなりましてのでオワリ。SH 中村 賢三